

7月31日の日食中の全国の空もよう

松 枝 弘

7月31日の部分日食は、晴天にめぐまれて観測に成功したところ、曇ってしまったため一瞬も欠けた太陽を見られなかった地域もあり、さまざまだったようです。

ここでは、全国各地の同好会からの情報を基に、日食中の各地の空もようの概略を報告します。

北海道……北部の稚内地方をのぞき、ほぼ全域で快晴。北に行くほど天文学的条件のよい今回の日食は、稚内付近が最適地でした。しかし、この地方だけが雲量10。遠征した人たちにとっては、まことに残念な日食だったにちがいません。

東北地方……ほとんどの地域で、食の始めから終わりまで雲量が0～3程度でした。そのため観測は各地とも成功しました。

北陸・中部地方……北陸地方はかなりの好天にめぐまれ、観測には支障がありませんでした。中部地方も全般に雲量が少なかったため、支障はなかったとのこと。

関東地方……雲量は3～9で、日食中も雨の降った地域もあり、変化のはげしい天気でした。しかし、雲の動きが速かったため、関東の人々は中天に輝く三日月状の太陽がみられました。

近畿・東海地方……両地方とも雲量は多いときでも8前後のため、多少晴れ間がのぞいていました。観測は、時どき雲で中断されたものの、一応できたようです。

中国・四国地方……中国地方は全般に雲量7～10で、時おり観測ができたもようです。四国地方では、太平洋側の高知が、雲量10の上に小雨が降り、まったく見られませんでした。しかし四国の他の県では、雲量8～9といった状態で、すこしは見られました。

九州地方……当日は、台風10号が長崎県佐世保市の南数10kmの海上を北上していました。そのため九州全域は風雨ともに強く、日食はごく一部の地域で雲をとおして一瞬見えただけで、ほぼ全滅に近い状態です。

